

白熱する台湾医薬品市場

台湾ではアパレル・雑貨・飲食店など多くの日本商品や日本発祥のサービスを受けることができます。コンビニもその一つで、ファミリーマートとセブンイレブンは台北の至るところで目にすることができます。その競争は激化する一方です。そのような中、全家便利商店（台湾ファミリーマート）が5月下旬より、24時間営業の薬局を併設した初の店舗を開業しました。

ファミリーマートと言えば、日本でも2009年にコンビニによる医薬品販売が解禁されてから、いち早く医薬品業界に乗り出し、既存の薬局との業務提携という形式で薬の販売を開始しました。台湾での展開に関しても台湾全土に38店舗展開する「大樹連鎖薬局（添進薬業股彬有限公司）」と提携し、台湾初となる「薬局併設型コンビニ店舗」として営業を始めました。同コンビニ内は多店舗と比較すると店内も広々しており、商品の約1/3分がベビー用品や化粧品、絆創膏などの医薬部外品が陳列されておりドラッグストアのようなコーナーになっています。一方で薬局部分のスペースは決して大きくありませんが、市販薬だけでなく処方箋も取り扱っています。

日本の店舗と違うところは台湾の薬事関連規定により、出入口はコンビニと薬局でそれぞれ別個に設けられており、また店内は2店舗の領域を明確にさせるため、ガラス板で仕切られています。また台湾には登録販売者制度がないため、その代わりに薬剤師を24時間常駐させ、サービスを提供しなければいけません。

台湾には昔から医食同源の考え方が浸透しているため漢方薬を取り扱うお店が多く、また薬局も小規模の専門店が数多く点在しています。専門店以外にも日用品や化粧品など多種多様な商品を取り扱うドラッグストアも人気を集めており、アジア最大のチェーンである「ワトソンズ（屈臣氏）」、化粧品・スキンケア商品のラインナップが豊富な「コスメド（康是美）」の2社は現在、台北市内の至る所で目にすることができます。更に近年、台湾での日本製医薬品の人気と共に、日本製の医薬品や日用雑貨などを専門的に扱う「日薬本舗」「日本薬粧堂」「Tomod's」といったドラッグストアの店舗数も急増しています。

このように台湾の医薬品販売市場は年々競争が激しくなっており、この度オープンした薬局併設型店舗に関してもその周辺は2件隣にワトソンズ、その向かいにコスメドが営業しているなど激戦区と言えます。競争が厳しくなる一方で利用者にとってはサービスが多様化し選択肢が増えて嬉しい限りですが、ファミリーマートと薬局の提携は新しいスタイルとして台湾の人々の心を掴むことができるのでしょうか。今後の発展が期待されます。



看板には「ファミリーマート×大樹連鎖薬局」と書かれ、入り口は別々になっています。



ファミリーマート内部から薬局内部を撮影。店内はガラスで仕切られており、明確に区別されています。